

プログラム名	『BIM』講演会	認定CPD	2単位
開催日	2021年12月14日（火） 15：00～16：30		
開催場所	名古屋市中区丸の内3-23-20 HF 桜通ビル13階 大塚商会セミナールーム		
講師	株式会社 大塚商会 建設プロモーション部 建設プロモーション課 課長 上田 浩司 氏 オートデスク株式会社 技術営業本部/建設ソリューションBIMスペシャリスト 三井 真則 氏		
担当理事	企画委員会 委員長 成田益美	その他	
参加者	NSK会員とその所員、建築関係 参加者 36名（会場12名 WEB 24名） CPD参加者 23名		
備考			

昨今の私たちの建築設計活動に大きくかわるツール、BIM（Building Information Modeling）について、BIMとは何か、導入の検討に当たりその効果、実態はどうか、などについて会場とオンラインZOOMによるWEB講演会を開催した。

今回は第1回として、講演内容はBIMについての概要、実態の状況などについて

第1部：BIMとは、BIMの活用のシーン、BIMソフトの概要、BIMの現状－ゼネコン・設計事務所・建材メーカー等の市場動向、BIMの導入から運用まで、運用サポートプラン。

第2部：BIMによる業務効率効果例（実施設計事務所の例）Autodesk Revitトレーニングなどの紹介の2部による講演を行った。

第1部では、BIMとはPC上に作成した3Dの建築モデルに、部材情報（仕上仕様コスト等）や管理情報などの属性情報を追加した建築物のデータベースを構築し、建築の企画計画、設計、施工、維持管理までのあらゆる工程で情報活用を可能にする概念のソフトである説明。

BIMモデルには意匠・構造・設備などの情報が含まれ、3次元データをもとに意匠設計者・構造設計者・設備設計者・施工業者・建材メーカー・施主間でのコミュニケーションの向上がより図れる。

BIM使用の設計の3つの特徴 ①可視化：施主、社内、上流工程とのコミュニケーションの改善、生産性の向上を実感。

②整合性：図面・リスト・パースは常に整合性が保てる。設計ミスの削減が可能。

③建物情報の有効活用：意匠、構造、設備、が一つのBIMモデルを受け渡すことでコミュニケーションの向上が上げられ、国内の主要BIMソフト（意匠系）－Revit(Autodesk社)－Archicad(GRAPHISOFT社)－GLOOBE（福井コンピュータアーキテクト社）の紹介と特徴の説明。

BIMの現状・市場動向では、国の施策としてBIMを必須条件としている外国の紹介や、日本の官庁/営繕の動向は平成26年BIMガイドラインを制定、平成30年国交省/営繕工事成績評定要領改正（BIMの利用などが加点される）、国交省のBIM試行案件の紹介や、設計事務所の事例、ゼネコンの業界「日本建設業連合会」建材メーカーの取り組みの紹介、BIMの導入から運用、サポートプログラムの紹介など。

第2部では、BIMによる業務効率化の実例として主な設計事務所10社その他の実施例の説明やRevitのガイド、（公社）日本建築士会連合会BIMポータルサイトの紹介など、実務活動状況の説明。

質疑応答では、使用における扱いや、詳細な機能の質問があった。最後に講師からBIMの導入、効果についてまとめの説明をしていただき、第2回講演に向けて講演会は終了した。

